

# いじめを許さない仲間・学校づくり ～いじめはなぜ起こるのか。私たちは何ができるのか。～

## 平成24年度「いじめ対策チーム」委員会議スタート!

いじめ問題についての対応等を協議し今後の対策に活かす取組として、平成24年11月3日土曜日、大津合同庁舎5階会議室にて、平成24年度第1回の「いじめ対策チーム」委員会議を開催いたしました。7年目になる今年度は、より多くの子どもたちの声を今後の対策に活かすために、児童生徒の委員を増やして会議を行いました。子ども委員12名を含む22名の委員の皆さんに出席していただき活発な意見交換ができました。



## 第1回「いじめ対策チーム」委員会議(平成24年11月3日)

### 各校の取組紹介

まず、全体会で各学校の  
いじめ未然防止の取組、状  
況について発表しました。



#### 【小学校】

きょうだい学級(例:1年生と6年生)を作っています。困った時に、相談しやすい環境をつくっています。

6年生を中心にいじめに立ち向かうチームを作り、何かあったときにはそのチームがそこに行って話し合うなどして、いじめのない学校を目指しています。

ポカポカ言葉(心が温くなる言葉)を増やし、ちくちく言葉(心が痛む言葉)を減らす取組をしています。

校内フェスティバルで3年生から6年生がアトラクションを計画作成し、全校でアトラクション巡りをしています。違う学年の人とも交流ができます。

いじめが起らないように、クラスでめあてを決める「いじめストップ宣言」という取組をしています。

代表委員会では「ありがとうエピソード」という取組をしています。心温まるエピソードを募集し、そこから何点かを全校放送しています。友だちへの感謝の気持ちをもつこと、優しさを広げることで、いじめ防止につなげています。

#### 【中学校】

文化祭で人権劇を生徒会が中心となって行っています。

市のいじめの会議で各校のアピール文を作成し、全校生徒の前で発表しています。

朝に生徒会であいさつ運動を展開しています。

生徒会でいじめに関する調査を行い、グラフを使って集計したものを全校配付し、私たちの学校でどのような傾向があるかを知ってもらっています。

数年前に、いじめを起こさないという強い思いで作られた「5箇条の誓い」を、今もなお全校で確認し合っています。

#### 【高等学校】

委員会の人権侵害やいじめ問題に関する書物を選定し、紹介しています。

学校生活で困っていることやより居心地の良い学校生活に向けての意見を生徒会で募っています。

スポーツ大会等のプログラムにいじめ問題を啓発するメッセージを掲載しています。

横断幕に書かれたいじめ問題を啓発するメッセージを学校の正面玄関に掲げています。

文化祭で各クラスごとにいじめに関するポスターを作成しました。



## グループ協議

3つのグループに分かれて、いじめはなぜ起こるのかについて、その原因、あるいは対応について話し合いをすすめました。子ども委員さんからは多くの意見が寄せられました。3つのグループから寄せられた意見の一部を紹介します。



### いじめはなぜ起こるのか。

女子の間では、性格が合わないことから起きることがある。  
苦手な人の愚痴を広めてしまう。そうすると、その人がどんどん孤立してしまう。  
悪口を共有し合う。みんなが言っているから、言ってしまうことがある。  
一緒に言わないと、次は自分が悪口を言われる、あるいは、仲間はずれにされる。  
噂話に流されてしまい、嫌いになってしまうことがある。  
グループ内での性格の違いから上下関係ができてしまう。  
グループ内でのちょっとした行き違いからいじめになることがある。  
からかいや遊びに周りが便乗し、いじめに発展することがある。  
遊びといじめの境目がわかりにくい。  
いじめられている側は先生や親にはなかなか相談できないことから、いじめがエスカレートしていくことがある。  
複数で一人をいじめている場合、人数に圧倒されて、なかなかとめにくい。  
生徒会活動の中ではいじめ問題に取り組むことができるが、一個人としていじめに直面したときには、今度は自分がいじめられるのではないかとの思いから、傍観してしまうことがある。



### 誰に相談するか。

(中高生)...誰にも相談できない。  
大げさになってしまうから。  
親には心配をかけたくないから。  
プライドが邪魔をして。  
自分の側にも悪い面があると思われそうだから。  
悲劇のヒロインに見られるのが辛いから。  
仕返しや‘ちくった’と思われるのがいやだから。  
他のことなら話せるが、いじめのこととなると話せない。  
(小学生)...親、親友、先生に相談できる。  
すっきりする、楽になるから。  
アドバイスがもらえるから。



### どんな先生がいてくれたらいいか。

生徒の目線で、トゲなく、いつでも話を聞いてくれる先生。  
いじめは自分からは話しにくい。積極的に話しかけてくれる先生。  
授業と休み時間の切替えがあって、話しやすい先生。  
自分のことを分かってもらえる先生よりも、自分の個性を活かしてくれる先生。

### ネット、携帯等によるいじめについて。

高校では、LINEのなかで、そこに関わっていない子への悪口が書かれるようなことがある。  
ブログに、特定の人の悪口やクラスの悪口が書かれることがある。  
ネットや携帯によるいじめは、ストレスの発散、あるいは、自分のことを見てほしい、わかってほしいという気持ちの表れから起こっているのかもしれない。  
男子は思いを表に出すが、女子は表に出さないの、このようなことが多いのかもしれない。

### 仲間づくりにかかわって。

「仲間意識を感じる時があると、いじめがなくなる」という意見が多く出される。どんなときに仲間意識を感じるか・・・  
音楽会、合唱コンクールなどで、歌声が合ってその良さを感じる時。  
大縄とびの大会で、みんなの息があってたくさん飛べたとき。  
水泳の大会で、自然と自分の学校の子を応援しているとき。  
部活動で、共通の目標を持って取り組んでいるとき。

## 大人委員から

それぞれの学校が「みんながいじめはいけないことなんだ」「やってはだめだ」ということをみんなのものにしようとがんばっておられる、それを今回の発表で感じました。

私たち大人はわかっているようでわからない。やはり本当に今学校で生活している皆さんが、そういった本当のところをどんどん出してもらってそれを聞かせてもらうことが本当にこれからどんなことをしていったらいいのかなという時に役立つと思いました。

## 会議を終えて(委員長より)

子どもの様子に気を配り、変化を見逃さない、子どもの悩みや相談にしっかり耳を傾ける、些細なトラブルと思われる場合にも一歩踏み込んだ働きかけをするといったこと、学校、家庭、地域が連携し合って、大人が見守り抜く体制を作っていくことが必要であるとあらためて感じました。

本日皆さんからいただきました貴重な意見を2回目の会議につなぎ、ストップいじめアクションプランの改訂や今後の対応策に活かしていきたいと考えております。



# いじめを許さない仲間・学校づくり ～いじめはなぜ起こるのか。私たちは何ができるのか。～

## 平成24年度「いじめ対策チーム」委員会議 今年度2回目の会議開催！

平成24年12月26日水曜日、県庁北新館5階会議室にて、平成24年度第2回目の「いじめ対策チーム」委員会議を開催いたしました。

今回は、第1回目の会議を受けて、中学生高校生になるといじめの相談ができない状況があること、また、仲間意識があるといじめがなくなること、この2つの点に注目し、いじめを相談できない仲間のために、私たちに何ができるのかを話し合いました。



## 第2回「いじめ対策チーム」委員会議(平成24年12月26日)

大きくなるにつれ相談できなくなっている。どういう理由から相談できなくなるのか。

- ・ 親に心配をかける。
- ・ 相談する勇気がない。
- ・ 友だちに言うと友だちがいじめに参加しそうなので言えない。
- ・ 女性の先生だと言えるが、男性の先生には言えない。(女子児童の回答)
- ・ 先生に言うとみんなに広まり大きくなる。
- ・ 相談するタイミングが難しい。先生に呼び出されると周りの子に怪しまれる。
- ・ 親と先生とのつながりのある場合だと相談できるが、つながりのない場合はできない。
- ・ 保健室の先生は話しやすい。
- ・ 先生は他には言わないというのに言うときがあり信用できない。
- ・ いじめられている人も悪いという意識があり、いじめられていることが恥ずかしい。
- ・ 大きくなるとプライドが出てくる。人目を気にする。だから相談できない。

相談するときにはどんな思いで相談しているのか。

- ・ とにかく聞いてほしい。話したい。
- ・ 動いてほしいとは思っていないが、でも解決したいという思いはある。
- ・ 相談するとスッキリする。みんなに近づいた気分になる。

相談できない仲間のために、私たちに何ができるか。

### 【みんなで遊ぶ機会を増やす】

- ・ 一人になってしまう子が一人にならなくてすむ。
- ・ 遊ぶ中でみんなの感情が自然と高まる。
- ・ みんなで遊ぶとトラブルも起きるがいじめにはならない。
- ・ 学級遊び係、全校縦割り活動等で遊ぶ計画をしていく。

### 【友だちの知らないところを知る】

- ・ 知らないところをあらためて知ることによって、その人のイメージが変わる。
- ・ 授業での「いいところさがし」などをいろんな場面でやっていく。帰りの会など。

### 【仲間意識を感じる場面を作る】

- ・ 市の陸上記録会や水泳記録会等で応援しているときに仲間意識を感じる。
- ・ 学年でスポーツの大会をする。勝っても負けても責めることはない。

先生に相談しやすい環境を作ってもらうには。

- ・ 先生から全員に相談できる時間を設定してもらう。
- ・ 自分のことは言えないが、仲間のことは言える。だから、言える機会(相談会、アンケート)を先生に増やしてほしい。
- ・ 先生から「最近どう?」「何かあったの?」などと心配そうに言ってくれると言いやすい。

## 小学生グループ



## 中学生グループ



なぜ、いじめの相談ができないのか。

- ・大げさにしたくない。みんなに知られるし、仲がよかった子からも、今までとはちょっと違う対応をされるかもしれない。変に気を使われるかもしれない。
- ・同情されるとよけいにつらい。変に気を使われると申し訳ないし、自分で何とかしないとイケないと思うから。
- ・相談してしまうと、男女の関係なく広まってしまうから。先生らは、ちゃんと理解してくれるだろうが、生徒の中には誤解する人もいたり、ばかにする人もいたりして、そこで、いざこざがあったりすると、生徒間では解決しにくい。

相談しやすい人、相談しにくい人というのは、どんな人か。

- ・相談しやすいのは大人の人。子どものいざこざは子どもより大人のほうが、解決しやすいから。大人の人でも、自分のことをわかっている身近な大人の人。逆に相談しにくい人は、まるで他人事のように扱ったり、ほっといたりするような人。
- ・大人でも友達でも信頼できる人ならいい。相談したときに自分のことをよくわかってもらえる人がいいし、自分の気持ちをわかってもらえたら楽になるんじゃないかと思うから。
- ・私の場合は、身近な人の方が言い出しにくい。一番理解はしてくれると思うが、よけいな心配をかけたくないし、自分のことで困らせたくないという思いが強いから。
- ・一番言いやすいのは、お母さん。学校のことはいろんなことをお母さんに話す。ぐちゃ部活のこととかは、言いやすいけど、いじめとか大きな問題になったら、親が心配すると思うし、心配をかけたくないし、事を大きくしたくないということもあって言い出しにくい。
- ・お母さん以外やったら、親しい友人にもいろんなことが話せるけれど、いじめの話となると、やっぱり話にくい。これまで居心地のよい場所だったところがそうでなくなってしまいそうだから。

相談できない仲間のために、わたしたちに何ができるか。

- ・いじめの状況を確認するときは、いじめられている人だけでなく、周りの他の人からも事情をしっかりと聞くべき。
- ・いじめている側の話も聞くべき。心が苦しい状況があるかもしれない。
- ・一緒に行動できる人を増やす。
- ・先生に話しにくいということもあるけど、止めてくれるのも先生。
- ・個性を大事にしたり、お互いの違いを大切にできるようにする。
- ・日頃から、お互いのいいところを見るように心がける。
- ・普段から当たり前前のことが当たり前前にできるようにして、正しいことがしっかりと話せる、行動できる集団をつくる。
- ・みんなの中から関わろうとする、声をあげようとする勇気を持つ。
- ・時折ではなく、普段の生活の中から、私たちにできることをすべきだと思う。

なぜ相談できないのか。

- ・相談するとみんなに知れわたる。明るい自分でいたいというプライドがあるので、いじめられていることをみんなに知られたくない。
- ・いじめは多数対一人という場合が多いので、自分が悪いことをしたのではないか。自分にも原因があるのではないかと思ってしまう。
- ・小学生だと先生に相談すれば話し合いで解決することができるが、中学生・高校生は先生に相談すると表面的には解決したように見えても、エスカレートすることがある。
- ・小学生だと親に相談できるし、大人だと自分で判断できるようになっているので上司など相談相手を選べるが、中学生・高校生は誰に相談すればいいのが迷う。
- ・親に相談すると心配をかける。親は自分の子どもの味方してくれるが、学校での出来事をすべて把握しているわけではないので、親の判断が正しいとは限らない。
- ・親しい友人には言えるが、「誰にも言わないで」と言うと、相談がそこで止まってしまう。友人が「一緒に先生に言いに行こう」と背中を押してくれれば勇気が出る。

## 高校生グループ





相談できない仲間のために何ができるのか。仲間づくりのために何ができるのか。

- ・いじめられて孤立している子には、最初はいじめのことに触れるのではなく、根気強く声をかけて関係をつくり、相手が心を開いて自分から相談してくれるのを待つ。
- ・いじめられている子に接する時には、周りから良い子ぶっていると見えたり、いじめの対象になったりするので、周りの目を気にせず踏み出す勇気が必要である。
- ・掃除の班や授業中のグループ学習だと普段話さない子と一緒に活動するので、多くのクラスの子と触れ合い、いじめられている子とも話さずかけができる。
- ・合同クラスの体育の授業や球技大会、百人一首大会等では別のクラスの子、学年の違う子とも仲良くなれる。イベントを通じて一体感をつくることも有効である。

先生に望むことは何か。

- ・朝の会等で先生が全体に注意するのは逆効果で、周りの子に「いじめられている子に声をかけるなど気にしてほしい」と背中を押すような働きかけがあれば良い。
- ・生徒の様子を見て、変化があった時に気軽に声をかけてくれる身近な存在であってほしい。怖い先生は相談しづらく、「何かあったのか」と聞かれても「大丈夫です」と答えてしまう。生徒と教師の距離の近いクラスは雰囲気が良い。
- ・いじめている子は絶対にいじめているとは言わないので、いじめられている子の言い分を聞いて対応してほしい。先生がどちらの側に立つかで結果が変わってくる。
- ・席が近くになると普段話さない子とも話す機会ができる。席替えが学校生活を楽しんでくれるかどうかに関わっているので、席替えをどういう基準、頻度でやるかを考えてほしい。席替えはクラスづくりにとって重要である。
- ・授業でグループ活動を行う機会を増やして、普段話さない子と関われるようにしてほしい。



## 大人委員から

学校の中に素直に言ってくれる場所が作れるかということも、もう一度改めて考えていきたいです。また、生徒同士で声をかけあうことが大きいです。ちょっとしたことが大切です。今日はありがとうございました。

「い」痛みがわかること、「じ」自分のこととして考えられること、「め」目と耳と心できづきあうこと、「だ」誰もが主役であるということ、「め」めざせストップいじめ、で「いじめだめ」となります。これからはがんばっていきたくと思います。

小よりも中、中よりも高のほうが言いにくい、プライドなどが邪魔をして相談しにくいということは、やはり教員がアンテナを高く持つことが大切だということも再認識しました。雰囲気を読むということ、そういうことは大事です。アンテナを高くすることの大切さを再認識しました。今日はありがとうございました。

お母さんには相談できるが父親にはできないというのがあって、父親として辛いなあと感じました。もっとコミュニケーション取らないといけないと思いました。

先生としていじめの感性を磨くということはもちろん大切ですが、それよりも情報を共有するということの大切さを感じました。学校全体で対応する環境づくりが大切だと思います。

## 会議を終えて

今年は「いじめを許さない仲間・学校づくり」～いじめはなぜ起こるのか。私たちには何ができるのか。～というテーマでの2回の会議でした。1回目は、「いじめを受けても相談できない」という意見が出ていました。私たち大人にはショックな意見でした。2回目は1回目を受けて、相談できない仲間のために何ができるのかということ深く考えていただきました。

児童生徒委員の皆さんの目線で考えていただき、大変有意義な意見が多くありました。いろいろと対策を考えていくときに大きなヒントとなる意見をたくさんいただきました。皆さんに大きな力をいただいたこと本当に感謝しております。ありがとうございました。人との関わり、仲間作りがいじめ対策に役立つということがわかりました。今後のいじめ対策にいかしていきたいと考えています。

